

産業建設常任委員会
所管事務調査資料
(令和8年4月21日)

(事務調査)

③ アライグマ対策について

産業経済課林業・森林再生推進グループ
農業グループ

1 北海道におけるアライグマ対策の背景

(1) 野生化の始まり

1979年（昭和54年）、恵庭市で飼育されていたアライグマが逃亡し、野生化したのが北海道での最初の事例です。

(2) 急速な分布の拡大

本来の生息地ではない北海道の環境に適応し、現在ではほぼ道内全域に生息域が拡大しています。対策を講じなければ10年で50倍の生息数になるとの指摘もあります。

(3) 深刻な農業被害

スイートコーンやカボチャ、イチゴなどの農作物が食い荒らされる被害が続いており、全道での年間被害額は2億円以上です。

(4) 生態系への影響

特定外来物として、在来種の捕食や競合による生態系への悪影響も懸念されています。

2 道としての取り組み

道庁は、環境省と連携し、「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」に基づき、個体数の削減と被害防止を図る「北海道アライグマ捕獲プログラム」を推進しています。

(1) 重点捕獲

春先の食糧不足時期に集中して捕獲を行うなど、効率的な防除技術の開発と普及が進められています。

(2) 体制づくり

市町村やハンター、農家が連携した地域ぐるみの捕獲体制を構築しています。

3 厚真町のアライグマによる農作物の被害状況及び捕獲実績

年度	全道 (百万円)	厚真町 (千円)	主な被害対象	計画頭数 (頭)	捕獲頭数 (頭)
H28	91	47	カボチャ、スイートコーン、野菜	200	410
H29	98	1,040	水稲、カボチャ、スイートコーン、いちご、野菜	400	398
H30	142	1,006	カボチャ、スイートコーン、いちご	400	426
R1	120	1,662	カボチャ、スイートコーン、牧草、ハスカップ	400	464
R2	145	1,596	メロン、カボチャ、スイートコーン、ハスカップ	500	604
R3	147	394	水稲、牧草、スイートコーン、ハスカップ	500	600
R4	134	620	デントコーン、スイートコーン、いちご	500	507
R5	174	661	水稲、カボチャ、デントコーン	600	427
R6	223	2,667	カボチャ、ハスカップ	600	418
R7	集計中	集計中		600	980

※R6 被害は高丘、朝日、鹿沼地区 ※捕獲は箱わな、くくり罠（R4 開始）

4 箱ワナ導入状況

厚真町鳥獣被害対策防止協議会では、毎年、地域農業者等に捕獲してもらうため、鳥獣被害防止総合対策事業を活用し、箱ワナを購入して貸し出ししています。

年 度	箱ワナ個数	事業費 (円)
R3	4	68,948
R4	25	357,500
R5	10	165,000
R6	5	87,450
R7	48	834,240
計	92	1,513,138

※貸し出している箱ワナのサイズ 31.5cm×26.5cm×81.5cm

5 近年の事業費

(1) 消耗品：殺処分のための炭酸ガス、ゴミ袋等

(2) 委託費：殺処分及びゴミ処理場への運搬（シルバー人材センターへ委託）

年 度	消耗品費 (千円)	委託費 (千円)		合計 (千円)
		町	土地改良区	
R3	138	104	613	855
R4	199	110	387	696
R5	112	129	218	459
R6	43	129	196	368
R7	237	92	401	730
計	729	564	1,815	3,108

6 現状における課題

(1) 個体数の増加

アライグマは非常に繁殖力が高いため、現状の対策だけでは厚真町内のアライグマを減らすほどの捕獲は困難です。また、近隣からの流入もありえることから、町単独での対策も困難な状況です。その為、継続的な捕獲が必要となり町民負担が発生し続けます。

(2) 箱ワナの継続的な追加

アライグマの増加に加え、箱ワナも一定期間の使用により壊れることから、継続的に箱ワナを購入することが必要です。また、今後も捕獲数が増加すると見込まれることから、対策費も増加すると予想しています。